

Musée Bernard Buffet



Buffet-Kun e-book vol.5

この本は、ビュフェとパナベルの物語です。

パナベル・ビュフェをもう好きになる月刊紙!!

月刊ビュフェくん

第5号

1945-1950

ビュフェくんとパナベル

西島大介



作品「ピエタ」の画廊「ルーヴル」のころ。

15歳のヒロに ビュフェが通っていたパリ6区
 「エコール・デ・ボガール」(国立美術高等学校)の
 すぐ近く、
 戦前-戦後の文化人のたまり場
 でした。



第二次世界大戦のとき(1939-1945)。

「ピエタ」の画廊「ルーヴル」のころ。

ニシロ時の写真を見ると、脱ぐお踊るお相当の乱痴気パーティーだったようです。

しかし、画家を目指す学生
ビュフェにとって
サン=ジュルマン=テ=プレは
あくまで
「美術学校のある土地」。

多くの芸術家が
カフェやビストロ、
地下のクラブに
集まりましたが...

オレたち
穴倉の
イキム
Santé
カン
イオン



近くの画廊へ
寄ることはあっても、
ビュフェが
サン=ジュルマン=テ=プレに
入リ参ることは
無かったようです。



表紙のブイブイの画廊もこの区にはありません。



後に妻となり、ビュフェにとって
創作のミューズの存在となる **Annabel**
アナベルも
この土地に通っていました。

地下。

基本はニシロのパーティーだったようです。

1936年、アタベルがまだ10歳にもたらずに母が自死。

ビュフェと同じ1928年生まれ。
複雑な家庭環境から
エカールの頃は孤独だった。
ここまたビュフェと同様に
母を喪ったアタベルは、
19歳になると、(1947年頃)
サン＝ジェルマン＝デ＝プレへ。



容姿端麗で
語学士甚能な
アタベルは、
モデルとして
また翻訳家や
作家としても
活動。



歌手としても活動。

作家の
フランソワーズ・
サガンや、

歌手の
ジュリエット・グリコら
と交流しました。
カフェでのアタベルの姿は
写真に残っています。

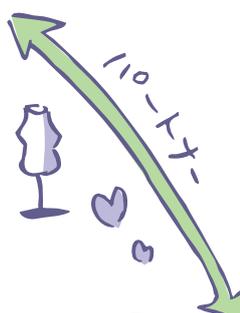
悲しみよ
こんにちは



ファッション・デザイナー。
ブイオールを経て、1962年独立。ベルジ
サポートで
世界的ブ

イヴ・サンローラン

Yves
Saint-
Laurent



ピエール・ベルジェ

アニメ化した
「木を植えた男」
原作者じゃ

哲学的
+ 舍書し!

二度も逮捕された
反骨の作家。

Jean
Giono
ジャン・
ジヨ

人脈を駆使して
文化とビジネスを
産み出すぞ

焚禁だった
「純粋の探求」を
ビュフェと
挿絵本として
共作。
(1953)



映画 (2014)
「イヴ・サンローラン」に
113113 詳しい113113
見てくれ!



阿片は
かめた.....

Jean
Cocteau
ジャン・
コクトー



詩人・作家・評論家。

モダリカーニカ
ピカソらとも交三流。
ビュフェの理解者であり、
挿絵本「声」を共作。
(1957)

フランソワーズ・
サガン
Françoise
Sagan

小説家、詩人。
アパールの本人であり
後にビュフェはサガン原作の
バレエ「失われたランティガー」の
舞台美術を担当。

Musée Fernand Lévy

コナペルと
Saint-Germain-des-Prés の **プルプ**
人コ+d

